

第2回 阿賀野市総合計画審議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：平成 29 年 11 月 1 日（水）午後 2:00～3:30

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：武田会長、上松（和）委員、上松（昭）委員、
羽賀委員、百都委員、相澤委員、塚田委員

2 議事概要

- (1) 阿賀野市総合計画及び阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
- (2) まちづくりアンケートによる施策別の重要度・満足度調査の結果について
- (3) 施策・基本事業の成果動向と評価結果について

3 主な意見

- (1) 阿賀野市総合計画及び阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

【施策1 安全・安心な暮らしの実現】

- 「防災訓練を実施した自主防災組織及び自治会数」の現状値が3自治体となっているが、目標値の55自治体までどのように増やすのか。
- 現状値となる平成26年度に防災訓練を実施したのは3自治会であった。平成28年度は防災塾・防災講演会・出前講座を実施し呼びかけたところ、49自治会が防災訓練を実施した。これらを今後も継続して目標値を達成する。(危機管理課長)
- 市内の自治会数はいくつか。
- 277の自治会がある。(危機管理課長)

- セーフティネットで支援は行ったが就労できなかったケースはあったか。
- 平成28年度では122件の相談を受け付けた。就労ができた件数は6件、収入が増加した件数は20件、引き続き支援を行っている件数は45件である。その差(51件)は支援の途中で挫折し、連絡が取れなくなったケースである。(社会福祉課長)
- そういった方は増えているか。
- 相談件数は毎年増えている。経済のことだけでなく、家庭や子育てなど相談内容は様々である。(社会福祉課長)

- 生活保護に対する誤解や偏見とはどのようなものか。
- 高齢者は生活保護に対してあまり良い印象を持っておらず、受給していることを知られるのが恥ずかしいと感じる方がいる。市としては適切に制度を利用してもらい、地域で自立することが大切だと伝えている。(社会福祉課長)
- 受給者の個人情報適切に守られているため、受給していることを知られるような案件はないと思うのだが、本人の意識の問題だろうか。
- 生活保護を受給していることを親戚や民生委員などに知られたくないと思っているため、受給者本人が必要以上に心配しているものと考えられる。家庭訪問の際には阿賀野市の表示のない車を使うなど配慮している。(社会福祉課長)
- そのような状況を解決する手段が必要である。
- 先の説明の通り、できる限りの対応を行っている。(社会福祉課長)

- 先日施行されたセーフティネット法は生活困窮者だけでなく、高齢者や子育て世代など対象の幅広い法律である。市民の方々にも周知すると良いと思う。
- 市の相談窓口も生活保護に限らず離婚やDVなど幅広い問題に対応している。多くの方々を利用して頂きたい。(社会福祉課長)

【政策2 子どもの育成支援の充実】

- 「子どもの社会性の発達過程を知っている保護者の割合」の指標は、どのように調査しているのか。
- 「何歳になったら言葉が話せるのか」といった成長過程を知っているか、乳幼児健診時にアンケートを行っている。(健康推進課長)

- 「子どもを遊ばせる場所が十分にあると感じる保護者の割合」の目標値(55%)が低い。全保護者が満足できるような割合に上げられないのか。
- 2年前に市内の子育て支援センターで保護者に聞き取り調査を実施した結果、新潟県は冬が長いので全天候型の遊戯施設が必要という意見が多かった。そこで平成28年4月、あがの市民病院の隣に「あがの子育て支援センターにここ」を整備した。子どもを遊ばせるだけでなく、保健師・栄養士・助産師等の相談も受けることができる。また2年前の調査では公園が不足しているという意見も多かったが、今年度より遊具の設置を行っているため、公園について現在どの程度の意見が集まるかは未知数である。指標の目標値は55%としているが、それ以上を目指したい。(社会福祉課長)

- 水原中学校が荒れているという話を聞いているが、安全な学校生活を確保する上で、市としての対策は考えているか。
- 水原中学校では1学期の後半から学校支援員を設置し、校舎内の巡視および生徒指導を毎日実施している。また教育センターからも指導主事が学校に入り、生徒指導の在り方について指導している。(学校教育課長)
- なんとか落ち着いてもらえればと思う。

- 「育てにくさを感じた時に対処できる保護者の割合」は、何をもって「育てにくさを対処できた」とするのか。
- 育児に困った時に適切な相談先があるかという意味合いであり、保護者へのアンケートで数値を取得している。市では妊娠届、2か月訪問、乳幼児健診の際など相談機会を多く設け、相談対応を行っている。(健康推進課長)
- 現状値の87%は、アンケートで87%の保護者が「相談場所がある」と回答したということなのか。また相談先など掘り下げた質問も行っているのか。
- その通りである。相談先等については聞いていない。(健康推進課長)
- アンケートで数値を取るだけでは解決にならないのではないか。育児の相談先について、保護者に対しより一層の説明が必要だと思う。
- 健診の際、育児の相談先として「あがの子育て支援センターにここ」を紹介している。ママ友との交流や保育士等の相談などに利用してもらいたい。(社会福祉課長)

- 公園の整備について、都市計画の面ではどのようなビジョンがあるか。
- 人口減少により新たな公園の整備は難しいため、既存の公園の活用を重視している。また現在検討している道の駅に子どもの遊び場を設置したいと考えている。(建設課長)

【政策3 高齢者や障がい者福祉の充実】

- 就労訓練施設で働いている障がい者数は何人か。
- 後日報告する。(社会福祉課長)
- 就職したものの1年続かず辞めてしまうケースもあるか。
- ある。(社会福祉課長)

- 「在宅で安心して生活できていると感じる障がい者の割合」を目標値85%としているが、具体的な課題は見えているのか。
- 新しい事業所の立ち上げや、ショートステイ可能な病床を増やすなど、障がい者や家族が身近に使えるサービスを拡充することで対応したいと考えている。(社会福祉課長)

【政策4 地域経済の活性化】

- 阿賀野市の主な業種は何か。
 - 福祉関係 28.1%、建設業 24.6%、製造業 15%の3業種が多数である。(商工観光課長)

- 市内で農家民泊などは実施しているか。
 - 農家民泊は村杉地区で1件のみである。(農林課長)

- 新潟県内や全国は、どのくらいの事業所が人手不足となっているか。
 - 本指標は市独自のアンケート調査であるため、把握していない。(商工観光課長)

- 「観光施設の満足度」はどの観光施設で調査しているのか。
 - 市の公共施設で調査している。「大変満足」24.5%、「満足」31.4%、「ふつう」30.9%で、この合計が現状値の86.7%（※）となっている。(商工観光課長)
※合計が0.1異なるのは端数を四捨五入しているため

【政策5 生活に密着した住環境整備の促進】

意見なし（改訂箇所なし）

【政策6 市民協働の推進】

- どのような自治会の行事が活動困難となっているか。
 - 自治会長アンケートを実施したところ、「道路・排水路の清掃」21%、「防災訓練」19%、「自治会だより等の発行」15%の順で活動困難という回答を得た。
ただし「活動困難」の意味合いを「現状取り組んでいるが困難な行事」ではなく、「現状取り組めていない行事」と解釈して回答した自治会長もいたため、誤解がないよう設問の修正が必要である。(総務課長)

- 自治会長が集める募金は一括で出せないものか。
 - 歳末募金以外は一括で出しても大丈夫である。(社会福祉課長)

- 自治会間の繋がりが弱い。地域の自治会の組織等を作る予定はないのか。
 - 現在はまだコミュニティ組織が育っていない状態であるが、広域連合自治会など、他市の活動を参考にしながら今後取り組みたい。(市民協働推進課長)

- 自治会間にも温度差が見られる。活発な自治会の情報を発信することで、他の自治会にも取り組みを広げていくことができれば良いと思う。
- Jアラート等の防災行政無線がよく聞こえない。
- 屋内ではどうしても聞こえづらいため土砂災害警戒エリアを中心に戸別受信機の普及を進めているが、設置費が高く市内全域の設置は困難である。
また水原地区は複数のスピーカーからの音声が干渉し聞き取りづらい状態であったため、音声を流す時間を地域ごとに調整することで干渉しないよう対応している。
なおサイレンの音自体は聞こえるため、音を聞いたらテレビを付けるという習慣付けを市民に行っていきたいと考えている。(危機管理課長)
- 防犯メールはあまり普及していない状態だが、放送が聞こえなくても市民が情報を取得できる便利なものであるため、PRを推進すべきだと思う。

【政策7 信頼される行政経営】

意見なし（改訂箇所なし）

(2) まちづくりアンケートによる施策別の重要度・満足度調査の結果について

- 「道路環境の充実」は消雪パイプに関する項目なのか。
- 道路全般に関する項目である。バイパスなど目に見える大きな変化が整備中であるため、現在は満足度が低い状態である。(建設課長)
- 「地域医療体制の充実」は重要度が高く満足度が低い。あがの市民病院は新しくなったが満足していない方が多い状況である。どのような対策を考えているか。
- あがの市民病院は院長も交代し、様々な改革を実施している。特に退院後の支援や接客について力を入れている状況である。外来患者数、入院患者数ともに伸びている。
しかし地域医療体制に関しては、あがの市民病院だけが問題となっているわけではない。地域医療の整備状況に関して市民アンケートを行った結果、安田地区の満足度が低いという結果が得られた。休日・夜間の診療先を知っている方の割合も安田地区が低いため、啓発が必要であると考えている。
また年代別では30,40代の不満が高かった。新発田の休日診療を利用する阿賀野市民を調べると小児科の利用が多かったため、市内において小児科の休日夜間対応が少ない点がこの不満の要因だと考えられる。医療資源は限られているため小児科をすぐに増やすことはできないが、地域間で協力しながら対応していきたい。(地域医療推進課長)

(3) 施策・基本事業の成果動向と評価結果について

- 「学校生活が楽しいと感じる生徒の割合」が低下している。原因は何か。
- 原因についてはアンケートを取っておらず、分析できない。推測であるが、中学校3年生は受験なども控えているため、小学校6年生(学校生活が楽しいと感じる児童の割合)の数値に比べると低いものであると考えている。(学校教育課長)

- ほ場整備は予算が足りない状況なのか。
- 市全体で5地区をモデル箇所として整備を行う計画である。それ以外の地区からも要望が上がってきているが、国・県の予算や市の負担の都合もあるため、全てを直ちに採択することはできない状況である。興味を持って頂いている点はありがたいので、どの程度できるか今後判断する。(農林課長)

その他

- 阿賀野高校の生徒数が減少しており、市民からも「閉校するから受験させる必要はない」という意識があるため、更に減少に拍車がかかっている状況である。県立高校ではあるが、高校がなくなると市の活気も減るため、市の支援が必要だと思う。
- 阿賀野高校は平成32年に2学級となるが、県教育長に存続要望を提出したところである。市内4中学校の3年生に阿賀野高校のPRを行っているほか、他の活性化策についても現在考えている。(市長政策課長)